

平成 27 年度第 6 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 27 年 9 月 24 日（木） 18：30 ～ 19：55

【場 所】 望来コミセン みなくる ホール

【出席者】 12 名（15 人中）

役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
会長	佐 藤 勝 彦	○	委員	小 山 玲 子	○	委員	前 田 和 也	○
副会長	渡 邊 教 円	○	委員	今 光 江	○	委員	美 馬 康 子	○
委員	大 黒 利 勝	○	委員	柴田 志寿子	○	委員	盛 重 栄 司	
委員	小笠原 英史	○	委員	柴 田 肇	○	委員	築 田 敏 彦	○
委員	河 野 すみれ		委員	高 橋 敬 二	○	委員	吉 田 美 香	

※正副会長を除き、あいいうえお順

本 庁 ～ 企画課 上窪主幹

支 所 ～ 西田支所長・熊谷課長

事務局 ～ 高田課長・相原主幹・渡部主査・永澤主任
(地域振興課)

地域おこし協力隊 ～ 小島隊員・沼倉隊員

【傍聴者】 3 名

- 【次 第】
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 情報交流（リラックス タイム）
 - ・地域の「ちょっといい話題」交流
 4. 報告事項
 - ・
 5. 協議事項
 - ・石狩市過疎地域自立促進市町村計画について
 - ・第 5 期の総括並びに引き継ぎ事項について
 6. その他
 - ・次回会議の日程について
 7. 閉会

1. 開会

高田課長： 皆さんお晩でございます。平成27年度第6回目の地域協議会に入る前に、河野委員、盛重委員から所用により出席出来ないと聞いておりますので、報告をさせていただきます。

平成27年度第6回石狩市厚田区地域協議会を開会致します。会長から挨拶をよろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

佐藤会長： お晩でございます。いつも会長の挨拶は簡単明瞭で、なるべく議事の時間を長く持ちたいので、私の挨拶は本当に短くするのですが、今日は、第5期委員の皆さん達の2年間の最後になる回という事になりました。毎月一回という事で24回会議を行い、たったの24回なんですけれども、その中の議論は大変重要かなと言いますか、地域にとって重要な事を色々と議論して参りました。後ほど、協議事項の中で第5期の総括並びに引継ぎ事項というところで、また、皆様方のご意見をいただきたいという風に思っておりますが、一言感謝の気持ちを込めて第5期の皆様方にお礼を申し上げたいと思っております。

その一つは、まずは第4期から引き継がれました「複合施設」ですが、皆さん達のご意見をいただきながら、地域の総意としてそういう施設が出来上がるという事で、私達の地域協議会からの発案によって、夢の実現をしたというのがこの第5期です。丁度、4期の委員から提案をされ、時間が無かったものですから、そのまま5期の皆さん達の議論という中に入って参りました。そこで、ご意見をいただきながら委員の皆様方も私も含めて、そういう複合施設。これからの地域活性化の拠点としての複合施設を何とか造りたいなという事で、最初は夢のような話だったのがどんどん具体化して来ましたので、私達のこの地域協議会の意欲でまずは石狩市を動かして、その次は、国を動かした事により、「重点道の駅」の実現に向けての具体的な方向性が見えて参りました。その中でも、皆さん達のご意見を全部入れまして、基本構想という意見を一応、石狩市の方に提案する事も出来ました。その基本構想を元にして、基本計画が今、練られている段階であります。そういうように議論が行政を動かし、国を動かし、そしてその夢の実現を果たしたというのは、正に地域の熱意そのものであったのではないかという風に思っております、これが第一点の感謝の印としてお礼を申し上げるという事。

二点目は、皆さん達の地域協議会の中で、これも発案があった訳ですけれども、地域おこし協力隊の導入はどうだろうかという事で、その新しい地域の活性化に向けた新しい力をこの地域協議会の中で議論し、そしてその実現をしたのがこの第5期なんですね。その第5期で実現をして、地域協議会の皆さん達に二年間、育てていただきました。これは正に、地域の皆さん達のお陰でそういう地域おこし協力隊も活動を十分にやっていけております。そういう事も含めて、それが二点目の皆さん方にお礼を申し上げたい事です。

そのように地域協議会が色々と地域の組織を立ち上げながら、或いは、具体的な方策を作りながら10年を迎えました。この10年で終わるのかなと思ったら、これも協議事項の中にありますが、過疎地域自立促進計画が5年延長されましたので、この自治区という事で、地域協議会も5年延びる事となり、更に、地域活性化に向けて新たに次の5年間をやっていくという事になりました。そういう事で、この第5期は正にこの節目の2年間だったという風に思いますので、今度、地域の為に、この委員の方々が汗を流していただけたという事を、期待を申し上げて私の今日の挨拶に代えたいと思います。

3. 情報交流（リラックス タイム）

4. 報告事項

・

5. 協議事項

・ 石狩市過疎地域自立促進市町村計画について

佐藤会長： 石狩市過疎地域自立促進市町村計画について、本庁の方で具体的な計画について鋭意検討中でありまして、その状況について企画課の上窪主幹からご報告いただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

上窪主幹： お晩でございます。少しお時間を頂戴しまして、7月に引き続きまして2回目の地域協議会での過疎計画の協議を進めさせていただきたいと思っております。お手元に、先ほど会長からもお話しにありましたが、現計画は平成22年度から27年度までの5カ年間の計画が現在定まっております。法律の改正により、平成32年度迄の計画を今年度変更しまして、5年間延長するものでございます。昨年度、地域協議会の新市建設計画の延長という事で、ご審議いただいたところでございますが、こちらの過疎計画につきましても、地域協議会の審議事項として定められておりますので、議論の方をどうぞ宜しくお願いしたいと思っております。7月の事前説明の際に、9月には素案の方をお示しするという話しをしておりましたが、若干、作業の方が9月にずれ込んでおりまして、こちら素案の報告につきましては、10月以降とさせていただきたいと思っております。申し訳ございません。本日は、素案の取りまとめ中でございますが、過疎計画に盛り込むべきアイデアですとか、視点について色々ご協議いただければと思ひまして、本日、お願いをしたいところでございます。今後の予定につきましては、素案を9月中に定めまして、10月以降にまた、こちらの地域協議会で審議いただくのと合わせまして、12月にはパブリックコメントを一月間行なうほか、北海道との協議も同時に進めます。来年の平成28年1月に計画を確定致しまして、3月の平成28年第1回定例会におきまして、議会の議決をご審議いただく予定となっております。重ねてですが、本日、何か盛り込むべきアイデアだとか、視点についてございましたら、ご議論いただきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

佐藤会長： この問題については、7月の地域協議会でご説明いただきまして、小冊子を委員の皆さんにお渡し、ご意見をいただいたという事でありまして。9月中に素案を作成中という事でありまして、それで委員の皆さんで過疎地自立促進の計画の中で、厚田としてこういう事をしたらどうだろうかというご意見やアイデアがありましたら、是非、ここでお伺いしたいと思ひますがいかがでしょうか。

柴田(肇)委員： ここでの話として適切かどうかは解りませんが、厚田もやっぱり厚田の事に限ってお話をすれば、厚田もやはり相当、人口の減少が進んでおりまして、石狩市全体で考えた時に地域によって人口が偏っているんですね。人口のそんなに減っていない所、それから大きく減っている所という事で、厚田の場合は減っていると思うのですが、何かやっぱり外から来ていただいて、住んでもらえるような何かしらの仕組みを市としても、長期的な展望に立って取り組んでいただけたら良いかなという感じがずっとしておりまして、私達、色々と考えてはみたのですが、何分、住むという事は住宅の問題に行き当たりますし、住宅というのは個人の所有で、あとは公共的な自治体の持ち物とか様々あるのですが、個人

所有になるとなかなかこれは難しい部分もありますので、市で所有している、或いは、開いている公的な住宅という事で教員住宅等も含めて、こういったところで何か、住宅を安く提供して住んでいただくという事も何とかならないのかなという事をずっと昔から考えておりまして、そんな事もこの中に盛り込んでいただけたら良いかなという感じがしております。

佐藤会長： 今の柴田委員の意見は何回か地域協議会の中で出て参りましたが、その空き家対策。それからもう一つは、外からこの地域に新しい人が来ても、ここに例えば、住んでいただく為には、食べていかなければならないものですから、そこに雇用の問題がありまして、空き家の問題、それからこの雇用の問題。色々な問題が、この地域協議会でも議論されました。先ほど言いましたように、公共の建物をちょっと改造するなり、手を加えるなりし、住宅を安く提供してくれると、まずは、空き家問題は解決する。ところが、こういう意見も出ていましたが、例えば、教員住宅が今空いていてと言っているけれども、来年、その教員住宅に住む方がいるかも知れないんですよね。今年はいないけれども、来年、転勤して来た方が住みたいとなると、そこを空けておかねえとならないので、ですから、教員が何名という場合には、最大ここが使えるようにという事で、今年は、或いは来年は空いていても、確保する必要があるので、なかなか、その辺の融通が上手くいかないんですね。それから、勿論、個人の空き家はどうせ貸しても駄目なんだという事で、そこに住んでいて、もうそこに住まなくなったんだけど、荷物をそこに置いていて、なかなか、本当の空き家にならないという事。それから、今度は古過ぎて手を加えても住めないのではないかなという様な空き家もあって、なかなか、打つ手が無いという難しい問題がある事を議論して出てきた訳ですよ。だからと言って、こまねいてどんどん過疎化していくというのは、やっぱりある程度の歯止めなり、その対策なりを立てなければならない。これは正に、促進計画が必要なのですが、なかなか難しいですよ。ですから、皆さん達から今すぐアイデアと言っても、なかなか地域協議会で今、柴田委員のようにご意見をいただきながら、どうするかと常日頃、地域として考えていく。または、地域協議会の委員が常にそういう事を頭に持っていて考え続けていっていただかないと、この計画はなかなか具体化して来ないと思います。そこで今、出てきた空き家対策。それからもう一つは雇用対策。こういうところでまた、アイデアがあればと思います。それから石狩市全体として、旧石狩地区の花川辺りはまだ、人口は減っていないのでしょうか。

上窪主幹： 多少、減り始めています。

佐藤会長： という事なんですね。それから今度は、狭い地域に限定しますと、例えば、厚田区だったら古潭が他と違って断トツに減っているのですが、聚富とかはあんまり減り方が急激ではないという事で、地域によって減り方は変わっています。古潭は高齢化率が6割に近いのかなと思いますが、もう古潭地域だけでは敬老会が出来ないんです。ですから、そういう事の対策がやはり必要だという事で、この間、自治会の会長さん達と懇談した時も、古潭の長さんから今度、地域おこし協力隊に農業をやりたいという人を自分が引き受けるから入れてくれないかという意見も出ていた訳です。ですから、そうやって何らかの形で地域にそういう人達を受け入れながら、この過疎地の計画を何とかやっていこうというような人達もいますので、そういうような人達の意見や何かを集めながら、今、柴田委員の言われましたように農業だったら、まだまだ厚田区で受け入れるという事が可能かなと思う

のですが、この辺は小笠原委員どうでしょうか。やっぱりその受け入れをしても、キャパシティの問題もあり、今、厚田区では米農家とか野菜農家では、もうそういう土地はありませんよという厚田区なのか、まだ、何十人かはそういう農業をやりたいという人を受け入れる余力はあるのではないかという感じ、感覚でよろしいのでその辺りはどうでしょうか。

小笠原委員： 受け入れるというよりも、どういう農業をやりたいかというのがあるのと、最後はもう個人の経営なので、経営能力だと思うんです。それさえあれば、どんな規模でもやっていけると思うし、新規就農でも本当に色んな新しい事に取り組んで、我々がなかなか取り組めない事をやって頑張っている人もいるとは思いますが、単純に来て、土地がそこそこあるから、さあ出来るかと言ったら、それは無理なのかなと思います。

佐藤会長： それって、農業がやりたいという意欲があって、そしてそういう事を昔は、農業指導員だとか農業を初めてやるという人達のサポートというのは、農協自体が何かで担っていたと思いますが、今はありませんよね。

例えば、僕が農業をやりたいと言った時の窓口はどこになりますかね。

小笠原委員： 何て言えば良いのか。

佐藤会長： 都会から、厚田はお米が美味しいとか言っているし、私、是非、農業をやりたいんですけどと言った時に、まず支所に行つてという時にどこに行ったら良いんでしょうか。

小笠原委員： やっぱり行政の方にまずは行ってもらって、それからなのかなというパターンが考えられますけど。

佐藤会長： そしたら、行政はどうしますか。

高橋委員： 私も農業の事はあまり良く知らないんですけども、近所の人とかと議員の人とも話をした事がありますが、やはり難しいのは、私の居る聚富の隣にある石狩高岡ですが、高岡の方は新規就農が盛んに行なわれ、たくさん人が入って来ている訳ですが、それで近所の議員さんとも話をして、どうして出来ないのと何回か聞いた事があるんですが、やっぱり農協と市町村の区分けがねじれており、農協で考えると石狩市の石狩農協と、厚田・浜益の北石狩農協と異なり、行政の方との区分けが合っていない事から、聚富地区は北石狩農協という事で、なかなか難しい部分がある模様です。だから、石狩市の中に農協が全部入っていれば、やりやすい部分もあるんですけども、当別の方に入っている部分があるので。

佐藤会長： 混乱しているので聞くのですが、素直に僕が農業をやりたいと言って、石狩市の本庁の方に行つたとします。そうしたら、石狩市は北石狩農協ではなくて、違う農協という事なんでしょうか。

高橋委員： そうですね。農協は違うんですね。

柴田(肇)委員： 石狩農協ですね。

佐藤会長： 石狩農協になるんですね。

高橋委員： 八幡町にある石狩農協になりますね。

佐藤会長： そしたらそこから窓口として、そっちを紹介する訳ですね。

高橋委員： 今の厚田区の方は、本所が当別町なんですね。

渡邊副会長： 厚田と浜益もそうですよね。

柴田(肇)委員： 農協が違うと、当然、農協の取り組み方が違うんですよね。

佐藤会長： なるほど。

柴田(肇)委員： 行政はその両方にまたがっているから。

佐藤会長： 仕組みはどうか知らないけど、私が農業をやりたいと言った時には、どこに行けば良いのか。

高橋委員： やっぱ農協ですよ。農協が手っ取り早いと思うんですけど。

佐藤会長： 小笠原委員、どうでしょうか。

小笠原委員： 本当に個人的な考えを言わせてもらおうと、本気でやる気があるなら、自分で調べて、何処にでも行けと言いたいです。そういう気持ちが無い奴は絶対に勤まらないと思いますので。問い合わせても教えてくれない、だから解らないなんて言っている奴は、自分は無理だと思っています。それ位、今は厳しい状況なので。

佐藤会長： 本当にやりたかったら、どこにでも行ってやりますもんね。
結論が出ました。農業をやりたい人は何処に行ってもやるんです。

柴田(肇)委員： それはそうなんだけれども。

高橋委員： 北石狩農協の方では、そういう新規就農の政策といいますか、そういう事はあまり積極的にはやっていないのでしょうか。

小笠原委員： どちらかといえば、あまり積極的ではないかも知れませんね。

高橋委員： だから、そういう所に行ってやりたいと言っても、なかなかそういう難しさも。

柴田(肇)委員： 農協によって温度差がある。新規就農に関して、受け入れに前向きな農協という事で、北海道全体もそうですけど、日本全体にしても、そういうそこその地域で、かなり温度差があって、それで積極的な所とそうでも無い所とあるので、行政もなかなか大変なんじゃないかな。

佐藤会長： はい解りました。この問題はこれ以上、議論しても難しいですか。

渡邊副会長： 結論は出ないと思います。

佐藤会長： 残念ですね。

柴田(肇)委員： だからとっても大きな問題なんです。

佐藤会長： だから、先ほどの地域自立促進計画を立てると言ったら、色んな方からそういう意見が出てきますよね。そうするとやりたいという人と、それではやらせてやろうという相思相愛の関係があるところが、一番理想的なんですよ。だって、結婚する相手がお前を嫌いだと言ったら、何ぼ一目惚れでも、それで終わりですもんね。

柴田(肇)委員： 住宅を提供するとか、応援、サポートをするという体制が、なかなか、これ温度差があると難しいですよ。こちらとしては、過疎だから来ていただきたいという想いは、皆、持っているけれども、具体的に仕事で農業をやる、或いは何かを言った時に、それをサポートしてあげられるかどうかという事になってくると、とっても大変な気がしますね。だけど、サポートしてあげたいと思いますよね。

佐藤会長： これは、小笠原委員が言うように、やりたいんだったら遮二無二どこかを探して、何処をこじ開けたってやるんだっていう意欲も必要ですよ。だけど問題は、そういう人を探し出すという作業もあり、本州の方だったら、普通、僕らに言わせれば、単純な動機で農業をやったけれども、そのやったのがキッカケになって楽しくて、それはなぜ楽しいかと言ったら、受け入れ先は、結構、高齢化してきて、跡継ぎも無いから、この土地はあなたに任せるから、やってご覧と言って農業指導をやって、動機は結構、不純だったけれども、そこから、結構、今、株式会社にしようという位やっていて、その辺はやっぱ、相思相愛を作っていくというのがやっぱり理想だよ。なかなかそれには近づかないだろうけども、何とかこの厚田でも、そういうのをやりたいなという夢があります。

柴田(肇)委員： この促進計画の中に、そういったものをチラッとでも組み込んでいただけないものかなと思います。

佐藤会長： そういう要望というか、意見がありました。

上窪主幹： ただ今、新規就農のお話がありましたが、市役所の企画経済部に農業総合支援センターというセクションがございまして、そちらの方で、新規就農の相談等も行なっておりますので、石狩と厚田・浜益区では農協が違うというのはありますが、まず、新規就農の相談につきましては、企画経済部で担当でございますので、申し伝えさせていただきます。

それから、今、柴田委員からありましたアイデアにつきましても、農業の支援という事で、現計画でも盛り込んでおりますが、こちらの過疎計画については、法律にありますように福祉の向上ですとか、雇用の問題とかというのは法律によって、計画に定めるようになっておりますので、そちらのアイデアにつきまして、現計画に盛り込んでおりますけれども、厚田支所地域振興課とも連携を取りながら、これから議論をして、また、協議会においても議論させていただければと思っております。

佐藤会長： ありがとうございます。農業とのパイプ、ネットワークは結構あるんですよ。窓口があるので、そこを利用させていただくという事で、あとは、地域としての受け皿を作っておくという事が、今後の課題という事になります。
 その他、委員の方々どうでしょうか。

大黒委員： 厚田に惚れて来た訳ですけども、前にも言っていると思いますが、だんだんと年を取ってきて、二人で住んでいると本当に不安になるんですが、どちらかが逝った時に、私は最後は今の家で死にたいので、そうすると訪問介護であったり、色々な事をやっていると思うんだけど、食べ物とかも含めて、何とか自宅で元気に長生きをさせていただけるようにしなければ、老人クラブの皆も片一方が亡くなると、残った方は娘の所へと行ってしまいうんですね。苦小牧であったり、札幌だとかという事で、結局は人口が段々と減っていく訳で、これはどうしようも無いんですよ。何か良い方法はありませんかね。寿命的に90歳位まで生きるという時代だから、元気で最後まである程度、家で生活をしたいという老人の最たる希望だと思うんですよ。何とか、そういうものを具体的に出来無いかなど。

佐藤会長： 大黒委員、他人事では無いですよ。

大黒委員： もう少し、温かい目でと思います。社会福祉の方でも色々あるんですけど、なかなかそれを活用出来ない。

佐藤会長： どういう問題が。

大黒委員： 積極的に電話を掛けて、あれを頼めば100円で出来るんだとか、色々な事があるんですけど凄くやっているんですよ。ただ、田舎にはそういうのは解っていないのか、反映していないなと思いますし、勉強不足なのかも知れないけど、やっているとは思いますが、もう少し強力にやってもらいたいと思います。

佐藤会長： どういう問題があるかという事をやっぱり洗い出す必要があると思います。

大黒委員： 折角、居た人が奥さんも居なくなって、農家も出来なくなり、跡継ぎもいなくなって、結局はどこかの施設に入ってという事で、その所の大きな家が空き家になっているんですよ。これも活用しなければ駄目だなと思いながらも、それで終わってしまうのは残念だなと思います。

佐藤会長： 正に、福祉という事で、この自立促進計画の大きな問題は、やっぱりそういう福祉の問題でしょう。それを過疎地でどうしていくかという議論は必要かも知れないですね。築田

委員はこの辺りどう思いますか。

築田委員： 私は民生委員もやっているのですが、やっぱり高齢者が自由に自宅に住んでいて、何の心配も無く生活出来る環境を作る為にはどうしたら良いか考えた時に、市の計画なんかにも福祉バスの利用とかってありますけれども、なかなか福祉バスだっと思うように使えない現状だし、もっともっと手軽に使える福祉バスが必要ではないかという気がしていますし、例えば、農協厚田店の購買が今、維持できなくなるのではないかと感じておまして、生協のトドックなどが来て、それを利用している人が沢山いますけれども、農協が農村地帯の方に移動購買を動かすとか、そういう事でそのお年寄り達が自分で買いに行かなくても、週に一度来てくれるシステムがあるからとか、それからもう一つは、私は厚田の中央クリニックにお世話になっているんですけど、入院施設が無いからという事もあるのか解りませんが、札幌の方の病院へ結構行っている方がいて、病気になり年をとってきて、結局、自分で運転が出来なくなってどうしようもなくなったから、厚田の診療所の方にしようかなという人も居たり、本当に生活するのに大変な状況ばかりが目に見えているんですよね。その辺の事をやはり地域がもっともっと密接に関わりながらやっていかないと駄目だなという気がしているんですよね。今の農家の就農問題にしても、実際に、地元で農業をやっている人達が、大変だから子供には継がせたくない、家を手伝いたいという息子さん達が居たりするのに、実際には農家を継がせたくないから、俺の代で終わらせるんだという人が居たり、そういう本当に色んな問題がいっぱいつまさっているんだと思いますが、それをここが良いという想いを作れるような、ライフワークも含めてですけども、皆が今度、地域で結び合っていないとならないんだという気がしますよね。だから、その為はどうしたら良いかという事をこの地域協議会の中で、皆で本当に、真剣に考えてもらって、縦割りの行政でなくて、横の繋がりがもっともっと出来るような行政を作っていっていただければ、例えば、前にもちょっと言った事がありますけども、福祉バスが足りないならば、スクールバスを動かすとか、そういう横の繋がりをもっともっと行政の中で考えてもらわなければ、本当に、絵に描いた餅みたいに、話だけで終わってしまうのではないかなという気がしているんですよね。

民生委員の事もちょっと話しますけれども、確かに旧厚田村は人口が少なくなってきていますから、民生委員の数がそこまで必要ないのではないかなという人もいるんですけど、3年に一回の任期改選の時に、次の民生委員のなり手がいない。人口は少ないんですけども、動く面積は変わらないんですよね。それぞれが担当する民生委員の面積は変わらないのに、人口比率だけで物事を考えられてしまっているの、だんだん民生委員の定数が減らされてきている中で、同じように動けと言われても、動ける人がいなくなる。そういう事も、色んな地域のお年寄りに目が届かない原因にもなっているのではないかなという気がしますし、その辺の事も含めて、色んな事があってどうしたら良いかと言ってもどうしようもないと思いますけども、それをこの中で前にも言ったけれども、敬老会出来ないところがあったら敬老会も一つで、地域協議会の中で計画をして敬老会をやっても良いのではないかなという話もさせてもらったんですけども、その部分だと思うんですよね。そんな事で、一つ一つ前に進めば良いなという気がします。特に、行政の横の繋がりが、縦割りでは無く、横の繋がりをもっともっと考えてもらいたいなという事で、それが地域に住む人達のヤル気を起こす一つ的手段ではないかなという気がしております。

佐藤会長： そうですね。本当に、築田委員の言われた問題点を整理しますと、今後、考えていかな

いとならない課題は、幾つか重要なところがある訳で、一つは、最初に言いましたようにやっぱり高齢化してくると、一点目として、問題は足の確保をどうするかという事で、先ほど言ったようにスクールバス、それから福祉バスという事で、縦割りの行政の中で出た交通システムなんです。この二つに更に、コミュニティーで公共の乗り物がだんだん減ったりして無くなった時に、コミュニティーバスをそこで走らせないとはいけません。その時に、コミュニティーバスは、またこの三つとは違うので、コミュニティーバスと福祉バスとスクールバスのそれぞれが縦で動いたら、ほとんど無駄なんです。人口が、何万以上の所は、縦割りの行政でも大丈夫なんですけれども、人口が2,000とか3,000人の所では、縦割りの行政は成り立たない筈なんです。だから、そのところを一体、どこの辺りでそれらをこう役所が融通してくれるかどうか、行政が融通してくれるかどうかという事を常に考えているんですけど、人口がこれ位だったらもう縦割り行政無し。全部、地域振興で、福祉から何まで含めて、全て地域行政をやらないといけないでしょ。そうしたら福祉バスだって、スクールバスだって、それからコミュニティーバスだって、全部一体になって、小さなバスが常に地域を循環して、孤独死が無かったり、それから物を届けてもらったりするトドックがありますが、これは高齢化している人があれをチェックして注文するのは、ほとんどの人には無理で、あれは結構、お金が掛かるんですよ。ですから、一つの物の単価が結構、高くなるんです。そういう事も全部含めて、今、問題を提起してくれましたので、これは高齢化する所の特に過疎地の問題で計画する時に、一つ一つ、解決出来るものを解決していかないとはいけません。これは、後ほど出てきます第5期の引継ぎ事項として、次の期に引き渡していくという事は、大変重要な問題点だという風に思いますので、その時にまた、よろしくお願い致します。

その他の意見はありませんか。

無いようなので、先ほどの企画課の上窪主幹の説明によりますと、12月にパブリックコメントを実施し、その期間は1ヶ月程度だと思いますので、また、委員の人達に見ていただいて、意見がございましたら、そこに出していただくという事でよろしいでしょうか。

・第5期の総括並びに引継ぎ事項について

佐藤会長： それでは、次に先程ちょっと申し上げました。「第5期の総括並びに引継ぎ事項について」という事で、相原主幹の方からご説明をお願い致します。

相原主幹： お手元の方に、「厚田区地域協議会 第5期総括並びに引継ぎ事項」と書いたA4の紙が一枚。それから、5月の地域協議会でご提示しました厚田区の各団体の活動報告の2点の資料について、ご説明を申し上げます。

まず、今回第5期が終了致します。前の第4期で示されました引継ぎ事項として、“近説遠来”というテーマが提示されました。これを受けまして、この第5期は、その実現の第一歩が踏み出された期になったと思います。ここに書いております総括並びに引継ぎ事項の要点だけ、私の方から説明致します。

これまで、色々なソフト事業が活発化する中で、そろそろ建物の整備が地域振興の“核”として必要ではないかという提案があり、「複合施設」の検討が始まりました。これを受けて、この5期は「重点 道の駅」という形で、これが結実して、今、平成30年開業に向けて、準備が進められております。

それからこの第5期は、同じ第4期中に、導入を検討しておりました「地域おこし協力隊」を平成26年度に導入しております。来年度が3年目となりまして、最長3年

の期間がありますので、例えば、起業だったり、定住という事も含めて、協力隊へのフォローというのが必要になってくると思います。

3番目として、これまで住民主体の新たな地域づくりについて検討をしてきまして、地域協議会の中でも、何度も住民主体による新たな地域づくりについてという事で、この場で皆さんと色々ご検討をして、色んなご意見が出たと思いますけども、この中でやはり、これからは今、築田さんのお話にもありましたが、住民との深い繋がりが必要になるだろうと思います。その為、この地域協議会という組織もございまして、もっともっと町内会、それから自治会との連携が必要になってくるだろうと考えております。そして、これまでの団体の活動、今回で10年という節目を地域協議会が迎えますので、振り返った時に、先ほどお話しをしました5月に提示したこの活動報告というのが、一つの成果として表れていると思いますが、非常に活発に活動がされていると思います。

それから4番目として、第4期からの当初10年という事もございましたので、この地域協議会の組織、若しくは、厚田支所がどうあるべきかという事が検討され、今のような地域協議会の組織、それから厚田支所の規模を含めた組織が必要であるという一定の方向性が示されております。今回、法律の改正によって、結果的に5年間地域自治区が延長されるという事になりました。第6期で、この地域協議会と厚田支所の組織というのが必要であるという方向性が出されておりますので、これについても、引き続き時世の変化等も踏まえて、継続的に検討や検証が必要になってくるだろうという事が表記されております。

最後に5番目として、今回、10年を一つの節目とする事もあり、小冊子の作成もまだ、正式に皆さんにご提示出来ていませんが、進められております。今日、このようにして総括とそれから引継ぎ事項という事で文章で提示しておりますが、この後、皆様からいただくご意見、まだまだあろうかと思っておりますので、それらを含めて小冊子に盛り込んで、総括とそれから引継ぎ事項にしたいと思っておりますので、その辺を表現しておりますという事で、私からの説明は以上です。

佐藤会長： ありがとうございます。今、相原主幹の方からご説明がありましたように、大きく5点に分けて総括していただきました。それぞれについて委員の方々から、この辺りをもう少し付け加えて欲しいとか、或いは、この点を総括に入れて欲しいという事がございましたら、まずはご意見を伺いたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

相原主幹： 皆さんは今、目を通していただいていると思いますけれども、先ほどのお話しを聞いておりまして、私はやっぱり、先ほどの築田委員のご発言とかが非常に深く考えさせられるなというのがあります。特にあの様に、こうなったら良いのではないかなというの、皆さんの中にも沢山あると思いますので、その辺のところをこういう文章を今回、出しましたけれども、是非とも、ああそういえばこんな事はどうなんだとか、厚田支所のあり方のこの辺が気になっているけどどうなんだい、とかという事も含めて、お話しをしていただければと思います。

佐藤会長： という事で行政の方からとも言われておりますので、安心してご意見、或いは、考え、アイデアを出していただければ、それはすぐ実現するものもあるけれども、ある程度、議論を尽くして何年かかかる問題もあると思っておりますので、その辺りは交通整理をしな

がらやっていければと思いますので、意見はご自由に出していただきたいと思います。先ほどの築田委員のは、重要な課題なので、是非、この総括の中に入れたいと思います。不足は何かありますか。入れるんだったら、この辺を整理して入れて欲しいとか。

築田委員：

複合施設が今、実現する形になりまして、あともう一つは、厚田の中で一つ心配しているのが、厚田中央クリニックで建物の老朽化。当然、市としても考えてくれているんでしょうけども、この老朽化したクリニックをどうしてもらえるのかという部分が一つと、例えば、この老朽化したのを建替えるとした場合に、さっき言った札幌の方にばかり行っているお年寄りが、処方箋を貰ってきて厚田のクリニックで遠くまで行かなくても良いので薬を貰うというか、何と云えば良いのか、長くそこで定期的に診ますよというのではなくて、処方箋を厚田でも出来るんだよというシステムを作ってもらえないのかなという風に思っているんですね。どうしてもこの行った所にしか、来ていないというのがあって、厚田でもこういう薬を出してくれるんだよとか、厚田でもこういう事をしてくれるんだよと言ったら、それなら今度は、厚田に行くかなという事で、札幌まで出て行って何時間もという事で、1時間も、1時間半も掛けて札幌まで行って、待ち時間で何時間も待っていて、やれやれと病院に行って疲れて帰って来る患者さんになって大変だけど、厚田に来たら折角、この厚田のクリニックがあって、望来からもバスで通っているのに、クリニック行きのバスに乗って来る人が3人か4人で、それをもっともっと活用出来る為には、どうしたら良いかと言ったら、札幌に行っている患者さんもそれに乗れば良い訳ですね。厚田に来てもらい、厚田に来た場合に、今までのお医者さんでなければ駄目だという訳ではなくて、全部、厚田に来て大丈夫だという事で、高齢者の病院を変えるという言い方が良いのかなと思いますけど、簡単に換えられるようなシステムを作ってあげる事も大事じゃないのかなという気がしているんですね。

こういうのは駄目なんじゃないかな。それは、営利でやっている病院の事だからどうしようもない事かも知れないけど、例えば、行政の中でそれを少しお手伝いをして、例えば、こういう患者さんは厚田で診れますよという感じで、こういう事がもっともっと周知出来ないのかなと思っていて、私の妹が札幌の病院へ通っていて、春に風邪だ風邪だと言って、風邪薬ばかりを貰って飲んでいたんですけども、一向に熱が下がらないんですね。日中は元気になるんですけども、朝になると熱が上がっていて出勤出来ないという風になって、そんな事じゃどうしようもないからという事で、厚田の病院に連れて来た訳ですが、血液検査をしてくれたり、レントゲンを撮ってくれたりして、札幌の病院では風邪だという事で検査をしてくれないのが、検査をしてくれた結果、肝臓が原因である事が解って、これはもう、すぐに行った方が良いからという事で紹介状まで書いてくれて、市立病院へ行った訳ですが、普通の病院に行っていると、治らない、治らないという事で、長くかかっていたと思うのですが、でも、厚田からこの紹介状を書いてもらって、血液まで取ってもらってやったらすぐ解り、厚田の病院って結構良いぞ、と私は思っているんですね。もっともっと、この厚田の病院を皆が使いやすいようなコマーシャルをしてあげる事も、行政が出来ないのだったら、先生にお願いして地域協議会の中で、コマーシャル出来るような事をやってあげても良いのではないかなという気がしたりしているんですけど、どんなものですかね。

佐藤会長： 札幌中央病院は総合病院でしたか。大体の診療科目があった気がしますね。築田委員の言った、医者というのは大体、専門分野がありますよね。その時に、例えば、今言ったように血液を採ったり何だりして、その札幌中央病院に送ると、それぞれの専門医という事で、大体、総合病院ですので、そうやってこちらと向こう側をそれから必要であれば、今、インターネットを使いながら、その人の症状を専門医が診断をするというその辺りのシステムを例えば、私設の病院ですから、そこにお金をかけてすぐにするあれが無いというのであれば、これはある程度、行政が面倒を見て、そういうシステムをそこへ導入して、そして総合的に診断出来るようなシステムで、医者は一人しか居ないけれども、そういう事も可能性としてはあるよね。

築田委員： そう思うんですね。ここの先生が、北海道社会貢献賞をいただきましたが、その時の祝賀会の裏話を聞いたのですが、あの先生に厚田へ来てもらう為に、当時の村長や誰かがどれだけ苦労をしたか、来てもらってやれやれで終わっているんですね。他の先生達もじゃあ、そういう病院だったら行っても良いとか、行ってみたいなのという思いになるような、その後のフォローが何もされていないから、結局、患者さんが少なくて終わってしまって、また、その先生が居なくなったら、他の人を、と悩まなければならないのではないかなという気もするんですね。

佐藤会長： そう。過疎地ではそれが一番の悩みで、もうすぐ隣も浜益が凄く大きな問題でしょ。だから、行政だって頭が痛いですよコレは。どうでしょうかね支所長その辺りは。

西田支所長： 私も四月から赴任して、田口先生とはご挨拶程度しかさせていただいておりませんが、今後、今言われたようなお話しも含めて、もっと、突っ込んだお話しをしていかなければならないんだろうなと思っておりますし、先生自体が、どう思われているのかという事が、一番キーになるのではないかなと思っております。築田委員のおっしゃられた妹さんの例もございましたが、私も何人か、先生の所に行って、そこから紹介状をいただいて、症状が良くなったというお話しを聞いた事もございますので、本当に大きな問題として捉えながらPRも含めて、クリニックと良い関係を保っていきたいなと、改めて今、思いました。ありがとうございました。

佐藤会長： 今度、役所として田口先生と話して聞いてみて下さい。実は、田口先生はここが大好きなのですが、ただそれは、個人的に好きな訳であって、次の医者があるかというのは、全然保障の限りではない。あの先生が辞めたら、その時に、大体、皆さんも行政、地域も含めて慌てるんです。だから、そういう慌てないように築田委員が言ったように、あそこの病院だったという風な過疎医療に対して、近代的なシステムがあって、そこでだったら安心をして、自分が医療行為を出来るなという事で、行ってあげようという人が出てくるようなシステムを導入して欲しいという意向だよね。

築田委員： そこまで大きくならなくても良いけど。

佐藤会長： いやいや、そこはもう夢だから言っておかないと、いつ果たしてくれるか解らないから、でもそれは過疎化している地域にとってはとっても重要な課題で、もし出来ればそれがモデルになる訳で、だから何でも最初にやってモデルにするという事であれ

ば、例えば、札幌中央病院だって市の予算がある程度付けば、面白いシステムでそれは中央病院としても、売りになるという事になれば導入するかも知れない。

西田支所長：

そうですね。バスの話もされておりましたけれども、福祉バスは特に聚富地区なり、望来地区の方々の生の声をお聞かせ願ひながら出来るものはやっていこうという事で、ルートを変えるという事も実際にやらせていただきましたし、まだまだ色々な声があると思いますので、そういったような事もお聞きしながら、田口先生の件についても、お忙しい方なので、なかなか時間も取れないと思いますが、出来る事と先延ばししてもいつまでというものをしっかりとやっていかなければならないんだと思うなと思っております。

佐藤会長：

是非、よろしくお願い致します。

大黒委員、やっぱり自分の暮らしている所で過ごしていきたい。でも、人間ってうのは、寿命もあるし、いつの時代もピンピンコロリといく人と、そうでは無い人がいるので、そうすると例えば、介護度が何度になった時に、その受入れの施設が必要ですね。だから、それは例えば、厚田にそういう施設があれば良いなという事で、そういう福祉施設の問題が次には出てくると思いますね。

渡邊副会長：

あつた中央クリニックとみよし園というのは、ほぼ同じ時期に出来ていると思うんですね。大体、34～35年経過し老朽化してきており、お互いどうしようかという時期ではあるんですね。高齢者福祉を支えていくには、医療と福祉の両輪が無ければ、皆さんが高齢になっても安心して住んでいく事が出来ないという事で、一生を考えた時に、お互いに建て直すのが良いのか、今ある形のままやっていくのが良いのかを考えなければならない時期には来ていると思うんですね。やっぱり皆さん方にも利用されるような、使用しやすい施設になっていかないとならないと思うので、そういう意味では田口先生なんかも、毎週火・木と19時まで開院してくれており、昔だと考えられませんでした。そうしたら、浜益から仕事が終わった人が予防接種をしにあつた中央クリニックへ来たりとか、他にも結構、色々な所から来ておまして、昔の国保診療所の時なんかは、全く考えられなかった事であり、やっぱり民間の良い部分とかを我々もそうですけれども、そういう発想の転換をしながら住民サービスに対して応えていくのは大事な事なと思っております。

佐藤会長：

という事で、医療の問題、それから高齢者の福祉施設の問題。これらのある意味では、充実していかないと住み良い地域というのは無く、一方では、人口を増やす為になるべく若い人に来て欲しいというのもあるんですね。でも今現在住んで、尚且つ高齢化してくる人達のそういう受け皿をどうやって整理していくかという事で、これは大きな課題になりますよね。ですから、これは是非、地域協議会の次の期となる第6期に引き継いでいってはいかがかだと思いますので、よろしいでしょうか。

【はいの声】

大変重要な問題点を引き継ぐという事になりましたので、第6期に向けてまた、委

員の皆さん方はそこで頑張っていたきたいと思います。

それでは、引継ぎ事項並びにその総括についてよろしいでしょうか。

【はいの声】

それではまとめの方、よろしくお願い致します。

6. その他

次回会議等の日程について

平成 27 年 10 月 19 日（月） 17：30 ～ 厚田保健センター 1 階 多目的ホール

7. 閉会

平成 27 年 10 月 19 日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会

会 長 佐藤 勝彦